

12月6日「落ち葉を拾ってプール遊び+ドングリ拾い」報告

森を守り育てる会

(千葉市板倉大椎土地改良区、緑の環・協議会)

☆2008年12月6日(土) 9:30~13:00 (関係者 8:30~14:30)

☆天候は快晴、最高気温11度。風：西北西から時折風速4m。

前日の夕方から雨と雷と強風の後、風は強めですが朝から快晴のお天気に恵まれました。

☆参加者は、子供29人 大人61人 計90人となり大変にぎやかでした。

内訳 子供は幼児から小学5年生までの29人、大人は一般参加31人、スタッフ19人(土地改良区・小山地区12名 緑の環他7人) ご支援者11名(日本熊森協会3名、千葉県生物多様性戦略室1名、観察指導員の方4名、千葉市環境保全推進課2人、里山センター1名)。

☆イベント開催の趣旨とご支援

この行事は、千葉県の生物多様性モデル事業としてご支援を受け、観察指導員の派遣については千葉市の支援を受けて開催しました。土砂採取跡地の貧困な土壌に里山の森を復元するためには、土作りが課題のため、落葉を集めて堆肥を作り、ドングリを集めて苗木を作り、自然植生を生かしながら再生を試みるために、大人も子供も自然と触れ合い楽しみながら参加していただけるイベントにしたいと企画しました。

☆プログラム1：焼き芋の準備

濡れ新聞紙・アルミホイルで包んだ芋をスタッフの皆さんが早朝から準備してくれた焚き火で出来た灰の中に入れる。子供も大人も焚き火が好きです！

☆昭和の森まで歩いて落葉とドングリ集め

子供達は自然観察指導員4名と父兄につきそわれ、昭和の森へ落葉とドングリを拾いに10人ずつ3班に分かれて出発しました。帰りは大きな荷物があり、雨で湿った落葉は意外と重かった?!子供達にはたいへんなのですが、楽しそうです。天秤棒やら、何かに乗せてひきずるやらいろいろな工夫がみられました。



☆落ち葉のプール

堆肥を作るために用意された特設のプールはすでにスタッフが用意してくれた、乾いた落ち葉がいっぱい！説明するまもなく次々とふかふかの落ち葉に飛び込む子、中にもぐりこむ子、仰向けになって空を見る子。紙ふぶきのように飛ばす子。見ている方はぶつかりあわないか、目にゴミでも入らないか心配でしたが、子供達は本当に夢中で次のイベントに移るのがたいへんでした。ちょっと痛い目に合う機会がない時代の子供たちに体全体を使って思いっきり自然の素材で遊べる機会を提供する試みは子供たちと親御さんにかなり新鮮な経験となったようです。



☆ドングリの種まき

拾ったドングリをポットに蒔いて持ち帰りのお土産にしました。来年、育ててここに植えましょう。残ったドングリは苗床にびっしり蒔きました。お持ち帰りのポットとどっちが良く育つでしょう？この周辺のコナラ・クヌギのどんぐりから育てた苗を大量に必要としていることを参加した方に知っていただけたことは大きな前進です。

☆被爆アオギリ二世植樹

広島から送られてきた被爆アオギリ二世の苗を植樹しました。小5の大きなお子さんに手伝ってもらい、植樹の完成です。(被爆アオギリ二世のエピソード解説は別紙)



☆昼食

早朝から地元の方がやってくれた焚き火のおかげでおいしい焼きイモができあがりました。ご好意で猪の肉の入ったイモ煮もふるまわれて各自持ち寄りの弁当を食べました。

☆紙芝居

日本熊森協会の方々3人による紙芝居が上演され、子供達は本当に引き込まれて真剣に聞いていました。熊の好物の話から始まり、実話に基づくオリジナルの紙芝居、クマのお母さんが射殺される場所、中学生が熊の好物のドングリの苗を植えていく運動を始め広がっていく様子は、千葉県にはクマはいませんがドングリを食べる動物はたくさんいるし、スタッフや地元の方も含めて、跡地にドングリの木を増やす意味がさらに深まり勇気付けられました。何よりも子供達を引きつけるのはゲーム機だけではないというのが印象です。



最後に、事務局星野さんがススキで作ったフクロウとミミズクを参加した子供達の全家庭にプレゼントしました。カワイイ！という声もあり喜ばれました。また、初めての参加の方には「クマともりとひと」（文部科学大臣奨励賞受賞）本を配布しました。

今日一日、子供達は本当に楽しそうでした。落ち葉のプールに飛び込み、堆肥の山を駆け登り、坂でのスライド遊び。子供達に必要なのは、こんな風に自分で工夫できる遊び場なのでしょう。そういえば、子供は我々の苗木でした。森を苗木から育てると、子供を育てるのを、同じ場で一体として考えると新しい地平線が見えてくるのかもしれません。

☆準備・通常手入れ

焼き芋の焚き火、カマドの準備、落葉のプールのたっぷり水の溜まった防水シートはずし、芋煮などの準備、ゴルフ場側の斜面やDエリアを中心に草刈など。

9月以降予め落葉を頂く交渉をし、落葉を頂きに行ったり、立派な堆肥場3m×3m×2連を半地下全深さ1.5mの板枠材料を集めて作って頂いた地元スタッフの皆さん、子供たちが通るアザミ谷津の出口は雨が降ると山からの絞り水が増えてぬかるむため板木を新たに渡したり、道案内看板を立てたり、皆さんのおかげで、多くの方に喜んでいただけました。また、枝などをよけて落葉を集めてくれた昭和の森協力会の皆さん、今回のコースを念入りにご計画していただいた観察指導員の皆様に感謝します。



☆2009年1月24日のチェーンソー研修の準備

里山センター平野様と小高理事長等で伐採木の選定、今後の斜面林の手入れの仕方など先々の方法なども相談。周辺のアカネザサ刈りも一部実施。

- ・くぼ地北の杉を2本選定したがどれも弱っていて時間の問題とのこと。
- ・杉林に自生する貴重なスミレ3種などもコノアカネザサを手入れしないと生えてこない。
- ・西北のコナラの大木の途中から折れた枝も処理することにする。
- ・斜面からの小径木の間伐でボタ木を作り来年からシイタケ栽培が可能と分かった。
- ・きのこの専門家の方が今回から新たに参加してくれました。

☆参加者の感想

子供たちからは、面白かった！また遊びたい！色々あってよかった。
親御さんからは、子供だけでなく親も貴重な体験が出来た。多少の痛みやケガをしながら子供が工夫し自然の中で遊ぶ場所としてよかった。また参加したい。もっと子供向けの参加できる機会や場所を作ってほしい。作業の手伝いに来たい。等々

ご参加頂いた皆様、有難うございます。また遊びに来てください。

今後は、定例の手入れの際に、子供たちが遊べるわんぱくゾーンを作ったり、子供も参加できる工作や畑作り、土手の穴埋め、植生調査など、来年の計画の際に参考にさせていただきます。また、苗木の様子や落葉がどうなったか様子を見がてら遊びに来てください。

☆次回定例予定

2009年1月24日（土）10：00～チェーンソー研修と周辺の斜面林の調査・手入れ他
斜面林の状態を調査し、今後の手入れ・利用を検討します。どんな植生があるのでしょうか？

報告：金井、星野、奥山 写真：椎名